

## 解説

- a 海綿状血管腫は静脈性の血管腫で、ほとんどは無症状で、直径は1cm未満である。脳幹の海綿状血管腫は増大することがあるが、その他の部分では増大することはない。
- b 脳実質に拡張した動脈と静脈が毛細血管を介さずにナイダスと呼ばれる脆弱な血管壁の血管集合体を介して直接吻合している先天性疾患である。出血で発症することが多い。無症状で、MRIやCTで拡張した異常な静脈があり、偶然発見されることも多い。画像は[http://www.nvca.be/en/exams/mri\\_scan](http://www.nvca.be/en/exams/mri_scan)より拝借した。
- c 硬膜動静脈瘻は動脈と静脈の直接吻合で、特に硬膜によく見られるために、硬膜動静脈瘻と呼ばれる。
- d 神経膠芽腫は脳実質性の悪性脳腫瘍で、血行性に富むが、血管の部分だけでなく実質性の部分があり、周囲の白質との境界は不明瞭で、広範囲な脳浮腫を伴うことが多い。
- e 髄膜腫は髄膜から発生した良性の境界明瞭な脳腫瘍で、脳を圧排する所見が著明である。